

センセイの授業

井口昭久

私は3年生の女子大生。センセイに「老年学」の授業をうけている。センセイは認知症なんかについて講義をしている。

授業は全部出席することが義務になっている。でもソフトテニスの県大会の試合に出たので3回も欠席しちゃった。ちゃんと大学のテニスの部長に証明書を書いてもらって持っていたのに、センセイは「部活は欠席の理由にならない」と言っ取合っくれなかった。だからもう欠席はできないの。

講義で、うとうとしていると、センセイに「フクザウユキチを、知っている？」と言われて、「ハイ」と答えたの。「何を書いたら

人？」と聞かれてびっくりした。思わず「坊ちゃん」と答えてしまった。センセイはそれを聞いていた他の学生が誰も笑わなかったことが不思議だって言ってた。

センセイはいつも私のことを「桜」って言うけど私は「朝倉」なの。何度もお願ひしたのにすぐ「サクラ」になっちゃう。

認知症は「物忘れから始まるって」って聞いたけど、センセイが認知症じゃないかと思っちゃう。

だってさ、前の授業で言った冗談をいつも初めてのように繰り返すんだもん。センセイがアメリカへ留学していた時に、相手は日本

人だったのに中国人だと思って英語で話していたら相手の人もセンセイが中国人だと思っってお互いに下手な英語で話をしていたって話、もう3回目だよ。今度言ったら「前に訊いた」って言おうかと思っっている。

センセイはこの頃授業の方法を変えたの。

板書やパワーポイントで壇の上からお話するスタイルの講義では学生が興味を示さないの、頭に来たらしいわ。

センセイが決めた担当者が次の講義までにレポートにまとめてくるわけ。そのレポートを聞いて皆で討論をするっていうことにしたの。センセイは「デイベート」って言うけど、真相は先生の手抜き。簡単にいうと、自分たちで勝手にお喋りしなさいってこと。

その日の担当はユーコだった。「もしも自分の母親が認知症になったら施設に入れるか、家で面倒をみるか？」という課題になった。ユーコが一人一人に訊いた。「母親はいくつ?」「その時私は結婚しているの?」「お



44.

じいちゃんは生きているのか?」とかいろいろ条件を聞いて私は「施設に入れる」に賛成したの。12人の女の子は皆「施設に入れる」に賛成になっちゃった。

後ろの方に3人の男の子がいた。男の子は3人とも「家で面倒見る」って主張したの。

そこで二つのグループに分かれて討論をするようになった。

討論の最初にユーコが男の子たちに「結局、あんなたちの将来の嫁が、あなたの母親の面倒を見ることになるんじゃないの?」と言うと、男の子は全員黙っちゃった。そして結論は「施設に入れる」で決まりになった。

(愛知淑徳大学教授・名古屋大学名誉教授)